

# 第6回愛媛県なわとび選手権大会 競技規定

## ☆ 参加規定

- 1 申し込みは、締切日までに、大会事務局に申し込む。締切日以降や当日の申し込み、ならびに出場する種目の変更は、一切認めない。
- 2 出場種目は、個人部門1人3種目、団体部門1人3種目までとする。
- 3 団体部門でカテゴリーが違う選手で出場する場合は、最も上のカテゴリーに属している選手の部門で出場することとする。  
(例) 小学生低学年と小学生中学年が合同で出場する場合は中学年の部に出場することとなる。
- 4 健康状態については、保護者が、責任をもつこと。傷害保険料を越える範囲の事故については、協会は責任を負わない。
- 5 棄権する場合は、大会前日までに大会事務局に届け出る。(やむを得ない場合は当日も可)
- 6 規定にない事態が発生したときは、競技部(会長・審判長・事務局等)で協議し決定する。
- 7 参加者は県内在住者のみとする。

## ☆ カテゴリー

個人部門：未就学児、小学生1年、2年、3年、4年、5年、6年、中高生部門、一般部門、シニア部門(60歳以上)  
団体部門：未就学児、小学生低学年、小学生中学年、小学生高学年、中高生部門、一般部門、シニア部門(60歳以上)

## ☆ 競技種目

【個人部門】※1人3種目まで(親子とびを除く)

小学生：あやとび、交差とび、二重とび、あや二重、交差二重とび、三重とび、親子とび

中高生：二重とび、あや二重とび、三重とび

一般、シニア：時間とび(5分)、二重とび、三重とび

【団体部門】※1人3種目まで

小学生：8の字ジャンプ1分・3分、みんなでジャンプ、ダブルダッチシングルス1分

中高生、一般、シニア：みんなでジャンプ、ダブルダッチシングルス1分

## ☆ 表彰規定

- 1 参加者には記録証を授与する。
- 2 個人部門上位6名には賞状を授与する。上位3名にはメダルを授与する。
- 3 団体部門上位3チームには賞状を授与する。

## ☆ 競技規定

※ 本大会のルールは第6回愛媛県なわとび選手権大会ローカルルールである。正式な競技のルールとは違う部分もある。

※ 競技中にロープが切れたり、破損したりした場合、出場順を改めて一度だけやり直すことができる。

【個人部門】

☆あやとび・交差とび(一回旋技)、二重とび・あや二重とび・交差二重とび(二回旋技)  
三重とび(三回旋技)

- 1 記録は跳んだ回数(着地した回数)で表わす。ただし、あやとび・あや二重とびについては手がクローズした回数を数える。

- 2 「はじめ」の合図があり、一回旋技・二回旋技・三回旋技を跳びはじめ、ロープが足に引っかかった時や、跳ぶのをやめたとき、また三回旋技は二回旋技や一回旋技、二回旋技は一回旋技になってしまったときが終了となる。
- 3 記録は、やめたときに両足ともロープを越えていれば、その記録は入れるが、そうでない場合は、最後の記録は入らない。
- 4 試技は1回とし、10回以上跳べた時は、それを記録とする。記録が10回に満たない場合は、直後にもう一度試技できる。ただし、それでも10回に満たないときは、よい方が記録となる。
- 5 競技終了後、直ちに審判が個人記録カードに記入する。
- 6 前回しでも後回しでも、どちらでもよい。

### ☆親子とび

- 1 保護者が短縄を回し、2人同時に跳ぶ。
- 2 1分間に跳んだ合計跳躍回数を競う。途中で引っかかっても、続けて跳ぶことができる。
- 3 1回旋1跳躍でも1回旋2跳躍でもよい。
- 4 親子とびに出場する子どもが複数の場合は、一緒に跳ぶ保護者は同じでもよい。

### ☆時間とび（5分） ※一般、シニア部門のみ

- 1 スタートの合図があり、審判長が拳手をしている10秒間にロープがつかえてしまった場合は、やり直して跳び続けてもよい。ただし、それ以後は認めない。
- 2 記録は、ロープが足にかかったりして、選手が跳ぶのをやめたときに終了する。
- 3 跳び方は、前方一回旋一跳躍とする。1回ロープを回す間に、足は1回つくことができる。2回以上ついた場合は、失格とする。また、ロープをゆっくり回し、1秒以上着地している場合も、失格とする。
- 4 記録は、とんだ時間で表わす。
- 5 跳んでいる途中で、他人の手を借りてはならない。
- 6 5分を上限とし、跳び切った選手は「完跳賞」と称し全員優勝とする。

## 【団体部門】

- ※ エントリー者提出式の「動画審査」で実施する。
- ※ 指定の提出期間に競技を撮影し、提出された動画から順位を決定する。
- ※ 動画を送ることができるのは1回のみとする。
- ※ 同回数の場合は、提出期間内により早く提出いただいた方を優先とする。
- ※ 撮影した動画や音源の編集、指定の音源以外での計測、その他不正が発覚した場合は、対象のチームは全て失格とする。

### ☆8の字ジャンプ（1分間・3分間）

- 1 1人1回ずつ跳び、跳んで抜けた後、次の人が跳ぶ。2人が同時に跳ぶことはできない。
- 2 開始のブザー合図がある前に、ロープを回していてもよい。
- 3 記録は、開始のブザー合図から終了のブザー合図があったときに跳んだ回数とする。
- 4 最後にロープが引っかかったときは、その人数は数えない。
- 5 時間内に、跳んだ合計回数を競う。何回ロープが引っかかっても競技は続けられる。
- 6 選手は、3名以上とする。（ロープの回し手2人を除く）

- 7 未就学児または小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、未就学児または小学生が1人以上でなければならない。
- 8 ロープの長さは、自由とする。
- 9 映像は三脚などで固定し、ターナーとジャンパーが映るように撮影する。

#### ☆ダブルダッチシングルス（1分）

- 1 ジャンパーが中に入った時点から引っかかるまでの回数を記録とする。
- 2 開始のブザー合図がある前に、ロープを回していてもよい。
- 3 記録は、開始のブザー合図から終了のブザー合図があったときに跳んだ回数とする。
- 4 最後にロープが引っかったときは、その回数は数えない。
- 5 1分間の間に、跳んだ合計回数を競う。何回ロープが引っかかっても競技は続けられる。
- 6 選手はターナー2人、ジャンパー1人とする。
- 7 未就学児または小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、未就学児または小学生が1人以上でなければならない。
- 8 ロープの長さは、自由とする。
- 9 映像は三脚などで固定し、ターナーと選手全員が映るように撮影する。

#### ☆みんなでジャンプ（1分）

- 1 競技時間は1分間とし、時間内であれば何度でも挑戦できる。
- 2 記録は、開始のブザー合図から終了のブザー合図があったときに跳んだ回数とする。
- 3 「ジャンパーの人数」×「連続で跳んだ最大の回数」を基本ポイントとする。  
(ポイント計算例)
  - ・ジャンパーが3人で200回跳んだ場合・・・3人×200回=600ポイント
  - ・ジャンパーが15人で60回跳んだ場合・・・15人×60回=900ポイント
  - ・ジャンパーが30人で20回跳んだ場合・・・30人×20回=600ポイント
- 4 「はじめ」の合図があり、跳びはじめ、ロープが足に引っかった時や跳ぶのをやめたときが終了となる。
- 5 選手は3人以上とする。（ターナー2人を含む）とし、上限はない。
- 6 未就学児または小学生部門のロープの回し手（ターナー）は、未就学児または小学生が1人以上でなければならない。